

平成 30 年度（ 29 年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち	評価担当	局名	創造都市推進局
	政策	文化芸術の振興と発信		課(室)名	文化財課
	施策	文化財の保存・活用		電話番号	087-839-2660
	基本事業	文化財の調査、整備、管理		事業実施主体	市
	事務事業	高松城跡整備事業		事業期間	平成 28 年度～平成 35 年度

【事業全体概要】

事業の概要	史跡高松城跡保存整備基本計画に基づき、石垣や披雲閣など各施設の保存修理に努める。天守や桜御門などの復元に向けて資料調査を行い、復元整備に努める。			
	30 年度概要 桜御門復元整備工事（繰越含む） 鞆橋北側石垣修理後測量業務委託 披雲閣耐震診断業務委託 天守復元基礎調査（樹種検討業務） 会議費等			
重点取組事業		一般重点	市長マニフェスト	事務事業の類型



【事業の目的】

対象（何を）	市民・観光客、整備対象文化財
意図（どのような状態にしたいか）	貴重な文化財である高松城跡の保存修理や復元整備を行い、史跡高松城跡の価値を顕在化するとともに、来場者数の増加を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
史跡高松城跡の保存修理・復元箇所数	箇所		2	2	3	3

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
	玉藻公園の年間入園者数	人	目標値		190,000	220,000	230,000	190,000
			実績値		238,146	228,385		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 史跡整備の推進により玉藻公園の景観向上に寄与することができ、目標値を上回る入園者数があった。	（目標達成度） 				<div>（達成度） 103.8%</div> <div>35点</div>		
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
	桜御門の復元	%	目標値		70	80	90	100
			実績値		50	50		
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 桜御門復元整備工事を2度にわたり入札に付したが、いずれも仮契約業者の指名停止により本契約に至らず、工事に着手できなかったため、目標値を下回る結果となった。	（目標達成度） 				<div>（達成度） 62.5%</div> <div>21点</div>		

【コストの推移】

指標名	単位	平成 27 年度（決算）	平成 28 年度（決算）	平成 29 年度（決算）	平成 30 年度（予算）
トータルコスト	〔千円〕	100,000	98,190	46,408	120,651
（事業費）	〔千円〕	90,774	82,488	25,923	100,166
（職員人件費）	〔千円〕	9,226	15,702	20,485	20,485

【評価】

評価ランク（A～D）	B	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入） 重要文化財披雲閣の耐震診断や鞆橋北側石垣修理工事を行い、利用者の安全性や景観の向上を図ることができた。一方、桜御門復元整備工事は目標値に達しなかったため、早期の工事着手を目指す必要がある。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入） 重要文化財披雲閣の耐震補強は、利用者の安全確保の上で最重要課題であり、早急かつ着実に実施する。あわせて、桜御門復元整備事業も、早期の完成を目指す。天守復元に対する市民の要望の高まりを受け（３０年６月２８日、「ＮＰＯ法人高松城の復元を進める市民の会」より陳情書と１０万人署名が市長に提出される）、３０年度からは基礎調査を実施することにしており、今後においても継続的に取り組む必要がある。			

平成 30年度（ 29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画 体系	まちづくりの目標		産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち	評価 担当	局名	創造都市推進局
	政策		文化芸術の振興と発信		課(室)名	文化財課
	施策		文化財の保存・活用		電話番号	087-823-2714
	基本事業		文化財の調査、整備、管理		事業実施主体	市
	事務事業		史跡石清尾山古墳群保存・整備事業		事業期間	平成 28年度～平成 35年度

【事業全体概要】

事業の概要	国指定史跡石清尾山古墳群は積石塚として全国に知られているが、築造から長い年月を経て積石の崩れなど傷みが進行している。また、稲荷山地区にも既指定の積石塚と同等の価値を持つと考えられる積石塚が存在するものの、国史跡には指定されていない。本事業では、これまでに調査した稲荷山姫塚古墳など未指定の古墳の国史跡への追加指定を進め、既指定古墳については、常に良好な見守環境を維持するため、除草・雑木伐採や説明板更新など維持管理に努め、将来的には保存活用計画を作成し活用を図るものとする。				
30年度概要	峰山地区境界測量 保存活用計画作成 調査整備会議 鶴尾神社 4 号墳保存対策事業基本設計 * 稲荷山地区境界測量（線越分）				
重点取組事業	一般重点	市長マニフェスト		事務事業の類型	


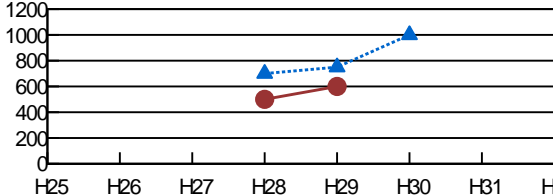
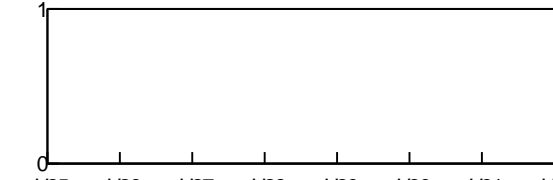
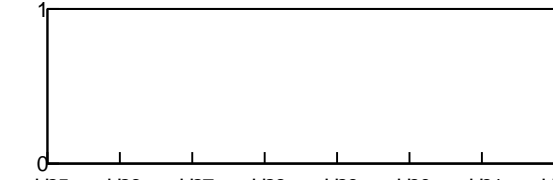
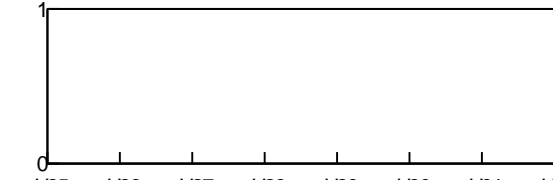
【事業の目的】

対象（何を）	石清尾山古墳群
意図（どのような状態にしたいか）	稲荷山地区に所在する未指定の積石塚の国史跡への追加指定を行う。また、既に国史跡に指定されている積石塚も構造を把握するために調査し、より適切に古墳を保存・活用する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
調査古墳数（累積）	箇所		2	2	2	2

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
	見学者数（累積）	人	目標値		700	750	1,000	1,000
			実績値		500	600		
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 2 9 年度は発掘調査を実施せず、史跡の追加指定に必要な報告書の作成のみだったため、話題性がなく、見学会の参加者数が目標値を下回った。	（目標達成度） 						（達成度） 80.0% 28点
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）	（目標達成度）						（達成度）
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
			目標値					
			実績値					
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）	（目標達成度）						（達成度）
	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）	（目標達成度）						（達成度）

【コストの推移】

指標名	単位	平成 27年度（決算）	平成 28年度（決算）	平成 29年度（決算）	平成 30年度（予算）
トータルコスト	〔円〕	17,434	16,829	14,998	20,609
（事業費）	〔円〕	9,757	8,978	7,411	13,022
（職員人件費）	〔円〕	7,677	7,851	7,587	7,587

【評価】

評価ランク （ A ～ D ）	B	今後の方向性 （ 拡充、継続、改善継続、縮小、廃止 ）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）			
2 9 年度は、稲荷山地区の調査報告書の刊行と史跡追加指定の意見具申を行い、石清尾山古墳群の文化財的価値の向上を図った。ただし、発掘調査を行わなかったため、見学会の参加者数は、目標値を下回った。今後は、古墳群の保存活用に向けた調査や整備、情報発信方法等について検討する必要がある。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）			
3 0 年度は、稲荷山地区の国史跡追加指定と合わせて、シンポジウムや企画展等を開催し、石清尾山古墳群の情報発信を積極的に行う。また、古墳群全体の保存活用計画を 3 1 年度にかけて作成し、調査や整備等に向けた準備を進める。			

平成 30年度（ 29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画 体系	まちづくりの目標	産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち	評価 担当	局名	創造都市推進局
	政策	文化芸術の振興と発信		課(室)名	文化財課
	施策	文化財の保存・活用		電話番号	087-839-2660
	基本事業	文化財の調査、整備、管理		事業実施主体	市
	事務事業	史跡・天然記念物屋島保存・整備事業		事業期間	平成 28年度～平成 35年度

【事業全体概要】

事業の概要	屋島は、地形上の特徴である「メサ」の標識として、また古代山城屋嶋城、唐僧鑑真創建と伝えられる屋島寺、源平合戦の古戦場の文化財が存在することから、昭和9年11月10日に国の「史跡天然記念物」に指定されている。このため、本市は文化財らしき保護法の規定により、史跡天然記念物の管理団体に指定されており、文化財である屋島の保存管理に努める義務がある。文化庁及び県教育委員会の指導のもと、現状変更等調査を実施し、北嶺千間堂跡や、古代山城屋嶋城の城門を確認し、15年度からは調査対象を屋嶋城に絞って確認調査を継続している。26年度から北嶺山上地区においても調査を実施している。				
30年度概要	発掘調査及び整理（報告書刊行を含む） 自然科学分析				
重点取組事業	一般重点	市長マニフェスト	5-	事務事業の類型	


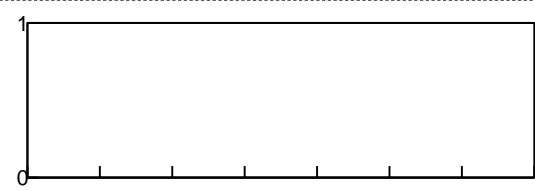
【事業の目的】

対象（何を）	文化財としての屋島
意図（どのような状態にしたいか）	（１）屋島の史跡等の詳細を把握し、文化財的価値を高める。 （２）文化財である屋島の保存整備を図る。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
確認調査件数（累積）	件		2	4	4	4

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30	
	確認調査によって内容の詳細が判明した件数（累積）	件	目標値		2	4	4	4	
			実績値		2	4			
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								（達成度）
	確認調査を目標どおり実施し、内容の詳細を把握することができた。	（目標達成度）							100.0%
									35点
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30	
			目標値						
			実績値						
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								（達成度）

【コストの推移】

指標名	単位	平成 27年度（決算）	平成 28年度（決算）	平成 29年度（決算）	平成 30年度（予算）
トータルコスト	〔円〕	13,079	8,325	11,862	10,207
（事業費）	〔円〕	10,776	5,970	4,275	2,620
（職員人件費）	〔円〕	2,303	2,355	7,587	7,587

【評価】

評価ランク（A～D）	A	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入） 調査によって新たな価値の掘り起こしを実施できており、今後も継続するとともに、掘り起こした価値の情報発信を行うことが重要である。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入） 今後とも計画的に継続して発掘調査等を実施する必要がある、調査等で得られた価値を顕在化させるとともに、屋島山上拠点施設等で情報発信を行っていく。			

平成 30 年度（ 29 年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画 体系	まちづくりの目標	産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち	評価 担当	局名	創造都市推進局
	政策	文化芸術の振興と発信		課(室)名	文化財課
	施策	文化財の保存・活用		電話番号	087-823-2714
	基本事業	文化財の調査、整備、管理		事業実施主体	市
	事務事業	埋蔵文化財公開活用事業		事業期間	平成 28 年度～平成 35 年度

【事業全体概要】

事業の概要	埋蔵文化財調査等によって明らかになった本市の歴史を広く知っていただくことが目的である。平成 27 年度には、古代山城屋嶋城跡城門遺構復元工事の竣工に合わせて記念式典を開催したほか、城門の C G 復元を実施し、スマートフォンやタブレット端末による現地での仮想体験を可能とした。また、29 年度は、屋嶋城築城 1350 年記念シンポジウムを開催し、屋嶋城を広く周知した。さらに、市内の埋蔵文化財等を題材とした講演会や現地説明会の実施、パンフレット等の充実、説明板の設置等を実施し、情報発信を積極的に行う。				
30 年度概要	石清尾山古墳群シンポジウム 連載講座 市内遺跡等普及啓発事業				
重点取組事業		市長マニフェスト		事務事業の類型	


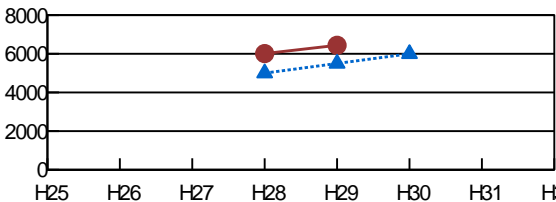
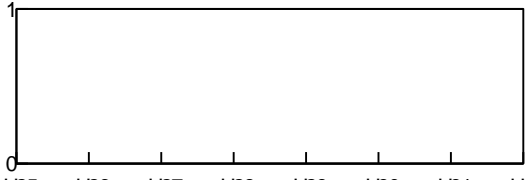
【事業の目的】

対象（何を）	市民
意図（どのような状態にしたいか）	市内の埋蔵文化財調査等によって得られた本市の歴史を知っていただく。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
埋蔵文化財公開活用事業関連行事開催回数	回		80	86	50	50

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
	埋蔵文化財公開活用事業関連行事参加者数	人	目標値		5,000	5,500	6,000	6,000
			実績値		6,010	6,439		
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 小規模の講座を多数開催することで、目標の約 1.2 倍の人に、情報を発信することができた。	（目標達成度） 						（達成度） 117.1% 35点
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
			目標値					
			実績値					
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） （目標達成度）							（達成度）

【コストの推移】

指標名	単位	平成 27 年度（決算）	平成 28 年度（決算）	平成 29 年度（決算）	平成 30 年度（予算）
トータルコスト	〔円〕	28,710	10,100	9,428	9,612
（事業費）	〔円〕	21,329	2,249	1,841	2,025
（職員人件費）	〔円〕	7,381	7,851	7,587	7,587

【評価】

評価ランク （A～D）	A	今後の方向性 （拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	継続
【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入） シンポジウムなどにおいて、県や関係市と連携しながら、周知などを図り、新たな参加者の誘引や効果的な P R を行うことができた。			
【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入） 今後も、県や関係市と連携しながら、効果的な P R 等を実施し、イベント等への新たな参加者を誘引していく。			